



20240319

校長の戯言 ♪ No.4 ♪ SEISHUKAN あ・ら・かると



鹿児島県立川薩清修館高等学校長 幸多優

■別れと出逢い

日本の春は別れと出逢いの季節と言われている。3月が年度末、4月が年度始まりという政府の古くからの習慣だ。年貢を納める時期に都合がよく、会計年度が決まったらしい。

明治時代に西洋式の教育制度が取り入れられた当初は9月始まりだったが、政府の会計年度に合わせた方が政府からの運営資金の調達が便利であり、軍隊の士官学校が4月開始となったために、優秀な人材確保の競争が始まり、学校は一斉に4月始まりとなった。

昨今、9月始まりの議論もあるようだが日本の素晴らしい四季に合わせて考えると、桜の花が咲き乱れるこの時期が分かれと出逢いの時期に合致しているのではないかと思う。



■春の定期人事異動

先日、卒業生とお別れしたところであるが、今度は教職員とのお別れである。鹿児島県の高等学校教職員は7年を標準勤務年数として、人事異動が行われる。

今年から定年が延長になるスタートである。昨年までは60歳の定年であったが、今年度は定年者がいない年である。今後は毎年一年ずつ延長され、5年後には65歳で定年となる。定年後に悠々自適の人生設計を夢見ていた先輩もいたのではないか。

さて、お世話になった同僚の教職員と別れるのはとても辛いものである。楽しい思い出はもちろんであるが、苦しく悩まされる事案を解決するために東奔西走された場面は感謝と敬意で一杯である。別れたくなくても、教職員個々の人生やご家族のことを考えると定期人事異動は大切なことかもしれない。教育公務員として全県下の公平分担な大切な制度でもあり、公立学校の存在価値を県民に理解していただくためにも必要なことではないか。



■新しい年度へ期待と不安

新年度へ向けて入学者選抜も実施し、新入生を迎える準備も着々と進められている。在学生も新しい学年に向けて心機一転、学習や部活動に精を出している様子がみられる。

教職員も生徒の各種記録を整理したり、校務の引継資料の作成や新年度へ向けての準備を進めたり、年間を通して一番の繁忙期である。

このような時期でありながら、生徒や教職員との新しい出逢いに期待でワクワク感が抑えられないのも事実である。山々の草木も芽をだし、それぞれの色を彩りながら新たな風景を創り出そうとしている。本校も4月から新たな美しい生徒たちの様子（風景）が見られることに期待を込めて年度末を楽しみながら過ごしているところである。



合格者集合で説明を受ける入学予定者と保護者